

# (仮称) いすみ市沖洋上風力発電事業 計画段階環境配慮書

## 事業者説明資料

三井物産株式会社・RWE Renewables Japan合同会社  
大阪ガス株式会社・K&Oエナジーグループ株式会社

2022年9月16日（金）

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K&Oエナジーグループ株式会社

### 本日の説明内容

1. 事業者について
2. 事業計画の概要について
3. 計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について
4. 方法書以降の手続における留意事項

以下の4社からなるコンソーシアムによる事業である。

- ・三井物産株式会社
- ・RWE Renewables Japan合同会社
- ・大阪ガス株式会社
- ・K & Oエナジーグループ株式会社

## 事業の目的

三井物産株式会社及び大阪ガス株式会社の再生可能エネルギー発電の経験、RWE Renewables Japan 合同会社の欧州での洋上風力発電の経験、さらにK & Oエナジーグループ株式会社の地域に根ざしたエネルギー事業の経験を活かし、地域の活性化への貢献及び地域との共存共栄を進めながら、洋上風力発電による電力の長期安定供給を実現することを通じ、地球温暖化対策及び我が国のエネルギー自給率の向上に寄与することを目的とする。

# 2.事業計画の概要について

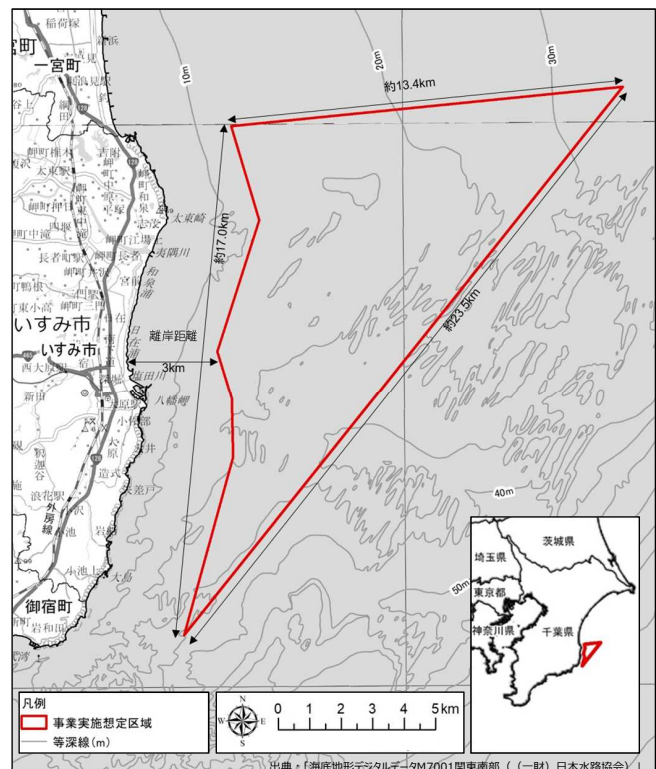
## 事業概要

事業の名称	(仮称) いすみ市沖洋上風力発電事業
発電所出力	最大495,000kW

## 事業実施想定区域

位置	千葉県いすみ市沖
面積	約9,590 ha
区域設定の考え方	再エネ海域利用法に基づき「有望な区域」に選定された「いすみ市沖」※を対象とした。

※「洋上風力発電に関する国への情報提供について」(2021年3月、千葉県商工労働部産業振興課)によれば、当該区域は、「太東沖から岩船沖までの共同漁業権区域内の砂地部分で、離岸距離は3キロ以上」とされている。



### 主要設備・工事計画の概要

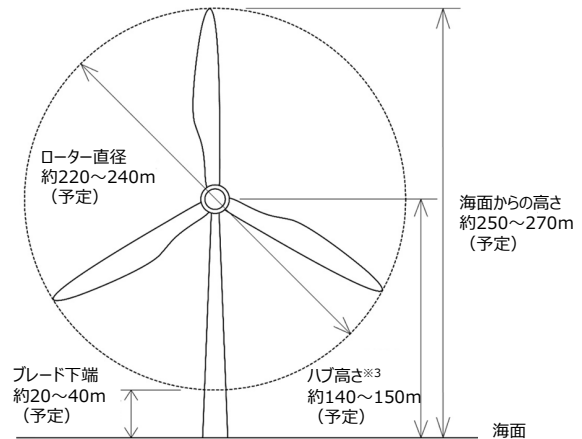
#### ■ 風力発電機※1

事業規模	最大495,000kW※2
定格出力	12,000~15,000kW級
基数	33~42基

※1：表中・図中の仕様は、風力発電機メーカーにおける仕様変更及び工事計画等の状況により、上記以外の数値になる可能性もある。

※2：出力制御を用いて、最大出力は495,000kWとする。

※3：ハブ高さは個別のカスタムメイド品が多く、現時点の想定である。

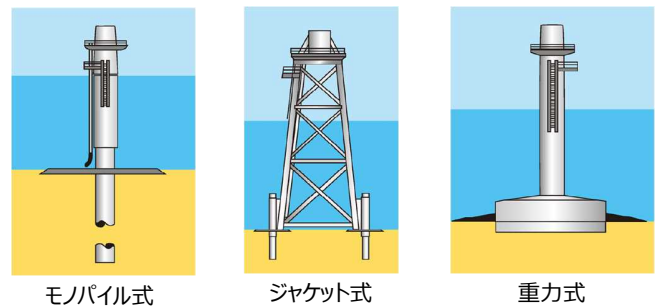


#### ■ 基礎構造

着床式のうち、  
モノパイル式、ジャケット式又は重力式

#### ■ 工事計画

- ・基礎工事
- ・電気工事
- ・風力発電機据付工事



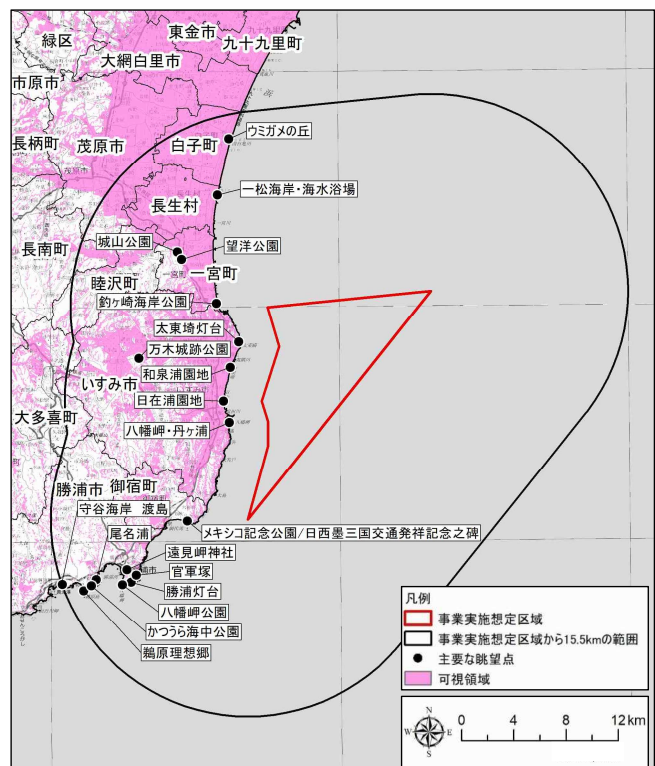
「NEDO再生可能エネルギー技術白書（第2版）」（2014年、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より作成

### 関係地方公共団体

勝浦市、いすみ市、  
長生郡一宮町、長生村、白子町、  
夷隅郡御宿町

- ・ **関係地方公共団体は、影響が最も広範囲に及ぶと考えられる景観の影響範囲に基づいて設定した。**
- ・ 風力発電機の高さを270m（15MW）とした際に、風力発電機の垂直見込角が1°以上※となる範囲として、事業実施想定区域から**約15.5kmの範囲に主要な眺望点が位置する地方公共団体を抽出した。**

※：「景観対策ガイドライン（案）」（1981年、UHV送電特別委員会環境部会立地分科会）では、鉄塔の垂直見込角が1.0°のとき、「十分に見えるけれど、景観的にはほとんど気にならない。ガスがかかって見えにくい。」とされている。



### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-1(205)～

#### 計画段階配慮事項の選定・非選定項目

	項目	選定／非選定 理由
選定項目	騒音	住宅、学校、福祉施設等への影響の可能性がある。
	動物	飛翔性動物（コウモリ類、鳥類）、海域に生息する動物への影響の可能性がある。
	植物（海域）	海域に生育する植物への影響の可能性がある。
	景観	主要な眺望点及び景観資源への影響の可能性がある。
非選定項目	工事の実施に係る項目	現段階で工事計画の熟度が低いため、方法書以降で検討する。
	風車の影	事業実施想定区域から住宅までは3km以上の離隔があり、風車の影の影響が生じる目安とされるローター径の10倍の距離（2.4km）以上の離隔が確保されているため。
	重要な地形地質 植物（陸域） 生態系（陸域） 人と自然との触れ合いの活動の場	直接的な改変が無いため。
	生態系（海域）	海域生態系は、種の多様性や種々の環境要素が複雑に関与し、未解明な部分も多いことから、調査予測評価手法が未確立であるため※。

※「発電所に係る環境影響評価の手引」（経済産業省産業保安グループ 電力安全課）における参考項目としない旨の記載を根拠とした。

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

7

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-1(205)～

#### 計画段階配慮事項の選定・非選定項目

方法書以降の検討事項としたもの

- **工事の実施に係る影響要因**である「工事用資材等の搬出入」、「建設機械の稼働」及び「造成等の施工による一時的な影響」に係る項目は、現在、工事計画の詳細と併せて検討中であるため、**方法書以降の手続きで検討**するものとする。
- 事業実施想定区域近傍で行われた銚子沖洋上風力発電実証研究では、重力式基礎の造成等の施工により一時的に海棲哺乳類(スナメリ)の生息数が工事前に比べて減少したものの、供用時には工事前と同じレベルまで回復する傾向が確認されている。このような事例があることを踏まえ、工事中の一時的な環境変化に伴う動植物への影響についても、方法書以降の手続きで検討するものとする。
- 「流向・流速」及び「水中音」に係る項目は、主務省令「5 風力発電所 別表第6」に示す参考項目として設定されていないが、「流向・流速」は事業実施想定区域の周囲の「重要な地形及び地質」に及ぼす影響、「水中音」は「海域に生息する動物」に及ぼす影響について、調査、予測及び評価の方法を含め、方法書以降の手続きで検討するものとする。

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

8

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-6(210)~

#### 【騒音】(1/3)

##### ①調査結果

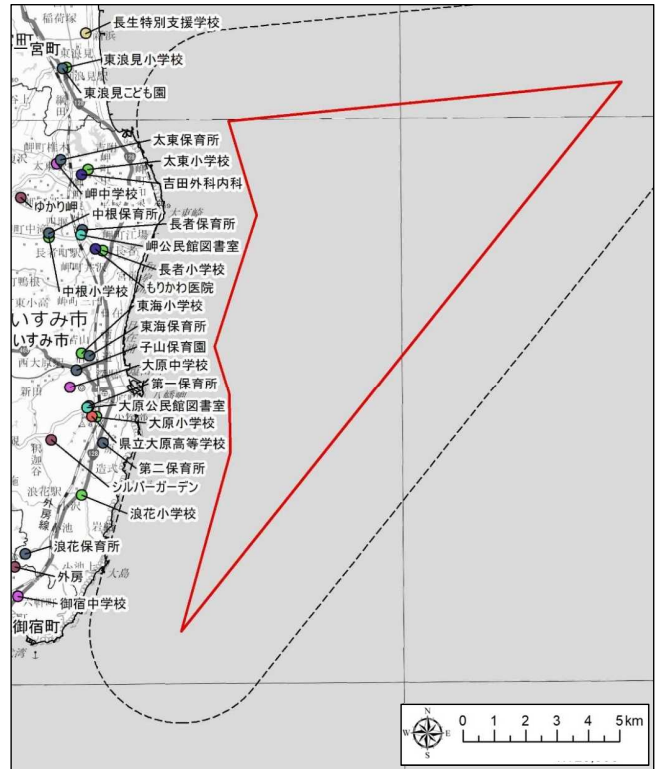
- 事業実施想定区域は**離岸距離が3km以上確保**されている。

##### ②予測結果 (1/3)

- 以下の施設等から3km以上の離隔が確保されている。
  - 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設
  - 住宅
  - 「環境基本法」に基づく「騒音に係る環境基準」の類型の指定地域

凡例

<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> 事業実施想定区域	<span style="color: red;">●</span> 高等学校
<span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> 事業実施想定区域から3.0kmの範囲	<span style="color: orange;">●</span> 特別支援学校
<span style="color: blue;">●</span> 保育所・保育園・こども園	<span style="color: green;">●</span> 公民館
<span style="color: lightgreen;">●</span> 小学校	<span style="color: purple;">●</span> 医療施設
<span style="color: pink;">●</span> 中学校	<span style="color: brown;">●</span> 特別養護老人ホーム



©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-11(215)~

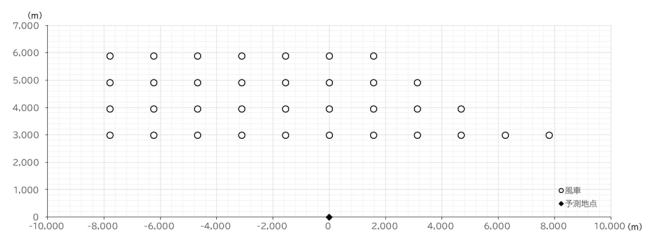
#### 【騒音】(2/3)

##### ②予測結果 (2/3)

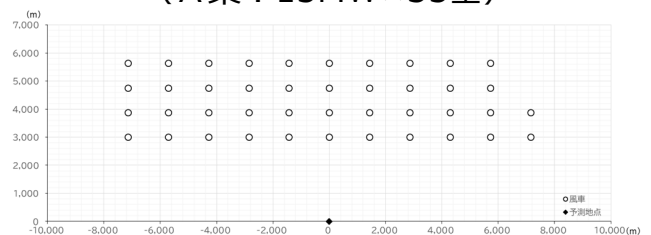
- 現計画の最大 (A案)、最小 (B案) の2案を想定し、仮の配置から3km地点 (最寄りの配慮施設及び住宅までの距離に相当) の騒音レベルを試算した。

騒音の予測条件

項目	A案	B案	
定格出力 (単機)	15MW	12MW	
基数	35基	42基	
ハブ高さ	150m	140m	
ローター径 (D)	240m	220m	
間隔電機	卓越方向 (6.5D)	1,560m	1,430m
	直行方向 (4D)	960m	880m
発電機の騒音パワーレベル※	120dB	120dB	



試算に用いた仮の風力発電機の配置 (A案: 15MW×35基)



試算に用いた仮の風力発電機の配置 (B案: 12MW×42基)

※ 風力発電機の騒音パワーレベルは、メーカー提供値を踏まえ、安全側の値として、いずれの案においても120dBとした。

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-13(217)~

#### 【騒音】(3/3)

##### ②予測結果 (3/3)

- 予測地点における風力発電機からの騒音の寄与値は、A案で32.0dB、B案で32.6dBであった。
- 環境基準A類型（夜間45dB・昼間55dB）では、**現況が基準値を満たしていれば、A案、B案とも環境基準を上回らない。**
- また、予測地点の**残留騒音が30dB以上であれば、A案、B案とも指針値※を満たす。**

##### ③評価結果

事業による重大な環境影響は、事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されている。

※「風力発電施設から発生する騒音に関する指針」（環水大大第1705261号、平成29年5月26日）

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

11

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-15(219)~

#### 【動物】(1/5)

##### ①調査結果

- 事業実施想定区域及びその周囲に生息する陸域動物（飛翔性）

分類	確認種	重要種	
コウモリ類	5種	4種	キクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ等
鳥類	246種	136種	カイツブリ、アホウドリ、クロサギ、コチドリ、カンムリウミスズメ、ミサゴ等

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

12

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-15(219)~

#### 【動物】(2/5)

##### ①調査結果：事業実施想定区域及びその周囲に生息する海域動物

分類	確認種	重要種	
海棲哺乳類	42種	18種 (予測対象16種※1)	キタオットセイ、ニタリクジラ、スナメリ等
海棲爬虫類	5種	5種	アカウミガメ、アオウミガメ等
魚類等の遊泳動物	魚類:953種 頭足類:24種	魚類:65種 頭足類:5種	クロヌタウナギ、クメサヨリ等 アブライカ、ヒョウモンダコ等
底生生物	節足動物:592種 軟体動物:1,546種 その他無脊椎動物:679種	172種 (予測対象159種※2)	ツバサゴカイ、ヘイケガニ、オオノガイ、 チリメンユキガイ、ウスハマグリ、ベッコウイモ、ウネナシトカケ等
サンゴ類	52種	1種	ニホンアワサンゴ
卵・稚仔	3種	(該当なし)	
動物プランクトン	140種	(該当なし)	

※1：「ワモンアザラシ」「アゴヒゲアザラシ」は氷海性種であり、本来の生息地は事業実施想定区域より北方であるため、予測評価対象から除外した。

※2：以下の13種は千葉県内絶滅種であるため、予測評価対象から除外した。「モクハチアオイ」、「ユキガイ」、「イチョウシロトリ」、「シラオガイ」、「ウラカガミ」、「ハマグリ」、「イオウハマグリ」、「イタボガキ」、「ウツセミガイ」、「イソチドリ」、「シゲヤスイトカケギリ」、「イボウミナナ」、「クロヘナタリ」

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

13

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-27(231)~

#### 【動物】(3/5)

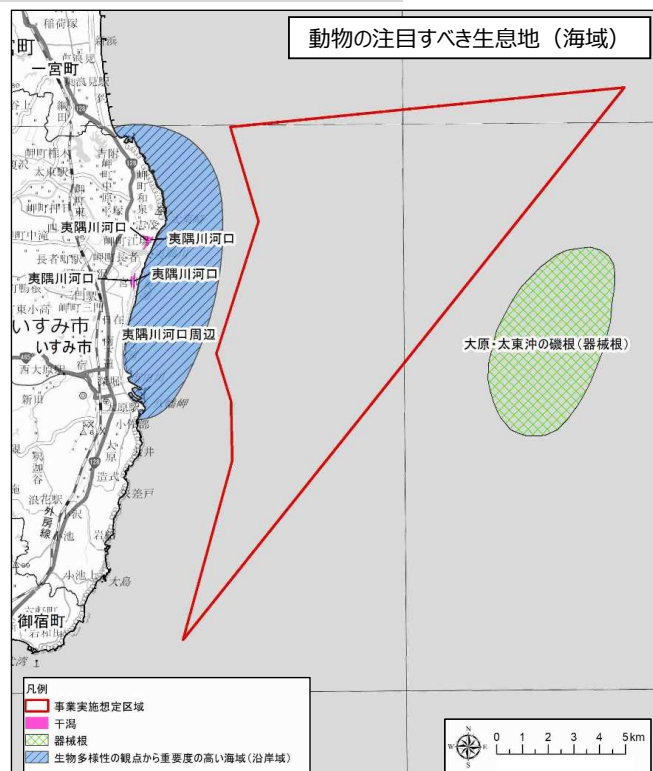
##### ①調査結果：注目すべき生息地

陸域動物	「大欠池」・「椎木堰・中原堰」・「夷隅」(鳥獣保護区)、「九十九里浜」(IBA・KBA・海鳥コロニー)、「一宮川・夷隅川の河口部」(生物多様性の観点から重要度の高い湿地)、「伊豆諸島北部」・「八丈島」(マリンIBA※1)
海域動物	「夷隅川河口周辺」(生物多様性の観点から重要度の高い海域(沿岸域))、「夷隅川河口湿地」(干潟※2)、「大原・太東沖の磯根」(器械根※3)

※1：事業実施想定区域から約300kmの範囲内を対象とした

※2：「自然環境保全基礎調査 第2回～第5回基礎調査」(環境省自然環境局生物多様性センター) 2022年1月確認より選定

※3：「いすみ生物多様性戦略—生物多様性豊かな地域づくり 里山里海を守り伝える人づくり—」(2015年、いすみ市)より選定



©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

14

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-32(236)~

#### 【動物】(4/5)

##### ①調査結果：専門家へのヒアリング結果

分類		意見の概要（一部抜粋）
陸域動物（飛翔性）	コウモリ類	<ul style="list-style-type: none"><li>事業実施想定区域は岸から3km以上離れているので、定常的にコウモリ類が飛翔しているとは考えにくい。</li><li>房総半島で繁殖するコビナガコウモリは、長距離を移動できるため、影響を懸念する声がある。</li><li>モモジロコウモリは、沖合には餌生物の虫がいないため、漁船の明かり等に集まる虫に誘引されなければ、沖合まで行かないと思われる。</li></ul>
	鳥類	<ul style="list-style-type: none"><li>コアジサシは夷隅川河口の海側の砂地で時折繁殖している。シロチドリ、コチドリも同じ場所で繁殖する。</li><li>沖合はカムリウミスズメの通り道となっており、沿岸で見られる可能性もあり、海岸から3km沖合でも通過していると思われる。</li><li>マリンIBA「伊豆諸島北部」・「八丈島」のコロニーで繁殖している海鳥類（カムリウミスズメ、オオミズナギドリ）、鳥島や小笠原で繁殖しているアホウドリ等は、千葉県沿岸まで飛翔してきていると思われる。</li></ul>
海域動物	海棲哺乳類	<ul style="list-style-type: none"><li>ザトウクジラは、ここ4年ほど銚子の沖合には、春先にかなりの数、常在しているという報告がある。特に留意すべき種として整理する必要がある。</li><li>スナメリは定住性が強いいため、空間的なゾーニングは難しい。インパクトを最小限に抑えながら、回復を促していくという対処の仕方がよいと思われる。</li></ul>
	魚類その他海域動物	<ul style="list-style-type: none"><li>ヒラメは沖合20kmまでの岩礁域内にある岩の隙間の砂地に生息する。また根につく種としてはマハタ、マダイ、チカメキントキ等が挙げられる。</li><li>当該海域は黒潮と親潮のぶつかる場所であるため、黒潮の影響が年によって変動することから、出現種もこれに合わせて変動する。</li><li>サンゴ類については、海底ケーブルを岩場に通す計画とする場合は、影響を受けるおそれがある。一方、風力発電機自体の稼働では影響はほとんど無いだろう。</li></ul>

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

15

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-36(240)~

#### 【動物】(5/5)

##### ②予測結果

- 事業実施想定区域及びその周囲に主な生息環境が存在する重要な動物のうち、事業実施想定区域及びその周囲の海域を主な生息環境とする種については地形改変及び施設の存在に伴う重大な影響が生じる可能性がある。
- 注目すべき生息地のうち、夷隅川河口周辺、夷隅川河口湿地及び大原・太東沖の磯根（器械根）については、事業実施想定区域とは重複していないことから、地形改変及び施設の存在に伴う重大な影響はない。

##### ③評価結果

事業による重大な環境影響は、事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されている。

ただし、文献その他既存資料及び専門家等へのヒアリングのみでは、事業実施想定区域及びその周囲における詳細な生息状況や、場の利用状況の情報を得られなかったため、今後の調査、予測及び評価の結果等を踏まえ、具体的な環境保全措置を検討する必要がある。

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

16



### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-41(245)～

#### 【植物】(1/2)

##### ①調査結果

##### ■ 事業実施想定区域及びその周囲に生育する海域植物

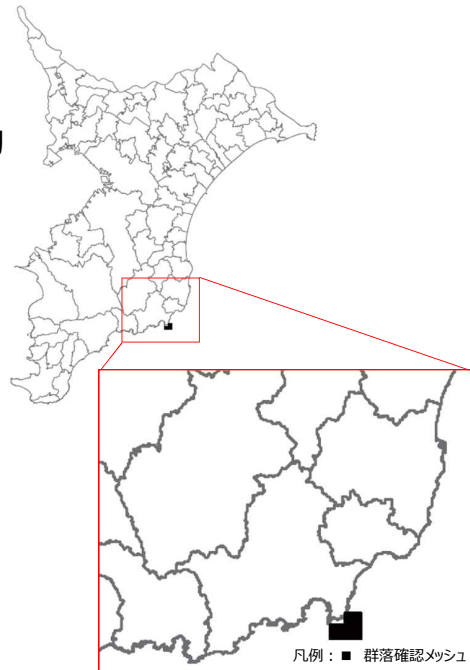
分類	確認種	重要種	
海藻類	290種	10種	マツモ、オオノアナメ、フリノウシゲ、アサクサリ、マキユカリ、アツバノリ、ホソアヤギヌ、アマモ、スガモ、エビアマモ

##### ■ 藻場の分布状況

群落名	県内分布状況
オオノアナメーアオワカメーカジメ群落	大原～御宿、勝浦の水深10～20mの岩礁

##### ■ 専門家へのヒアリング結果

分類	意見の概要 (抜粋)
海藻類	<ul style="list-style-type: none"><li>・いすみ市沖の器械根に生育する重要種「オオノアナメ」は、報告例が少なく、本種の確認はほとんどが海岸に打ち上げられた株によるものである。</li><li>・過去の報告では水深48mで確認されているため、事業実施想定区域内に生育する可能性はあるが、藻場のような広域の分布はせず、パッチ状に分布している。</li></ul>



出典：「千葉県の上重要な野生生物 - 千葉県レッドデータブック群集・群落編」(2020年、千葉県)

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-43(247)～

#### 【植物】(2/2)

##### ②予測結果

- 事業実施想定区域及びその周囲の海域を主な生育環境とする種については地形改変及び施設の存在に伴う重大な影響が生じる可能性がある。
- 事業実施想定区域及びその周囲においては、オオノアナメーアオワカメーカジメ群落は事業実施想定区域内に生育する可能性があるため、地形改変及び施設の存在に伴う重大な影響が生じる可能性がある。

##### ③評価結果

事業による重大な環境影響は、事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されている。

環境影響が生じる可能性がある種については、既存資料及び専門家へのヒアリングの結果から事業実施想定区域内における詳細な生育状況や分布状況を得られなかったため、今後の方法書手続以降の調査、予測及び評価の結果等を踏まえた上で、具体的な環境保全措置を検討する必要がある。

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-46(250)~

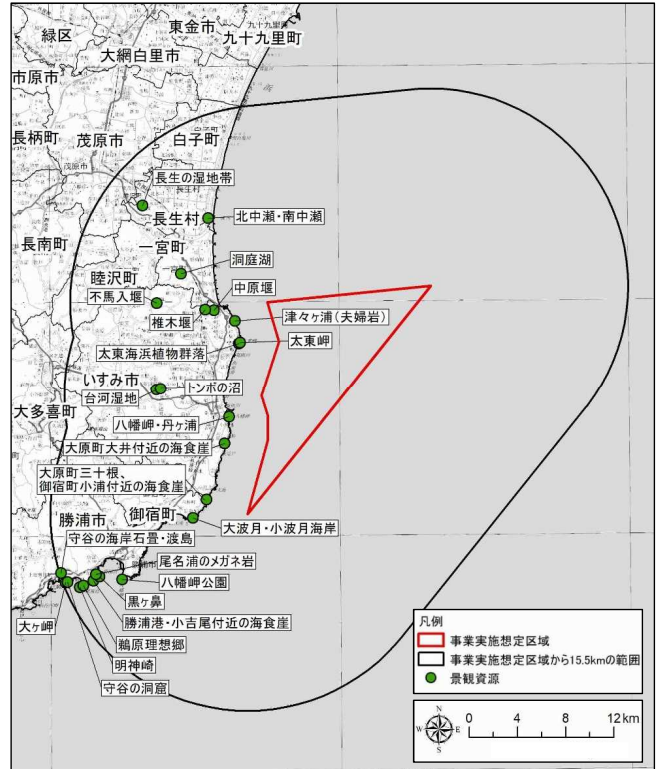
#### 【景観】(1/4)

##### ①調査結果(1/2)

(景観資源)

- 文化的景観資源※として、「白子町の納屋景観と地曳網漁」、「御宿町御宿の海岸景観と月の砂漠・ドンロドリゴ上陸地」等7箇所が指定されている。
- その他主要な景観資源として「尾名浦のメガネ岩」、「守谷海岸渡島」、「八幡岬・丹ヶ浦」、「太東海浜植物群落」等の24箇所が分布する。

※：「ちば文化的景観」（2008年、千葉県教育委員会）による指定。具体的なエリアは図示されていない。



### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

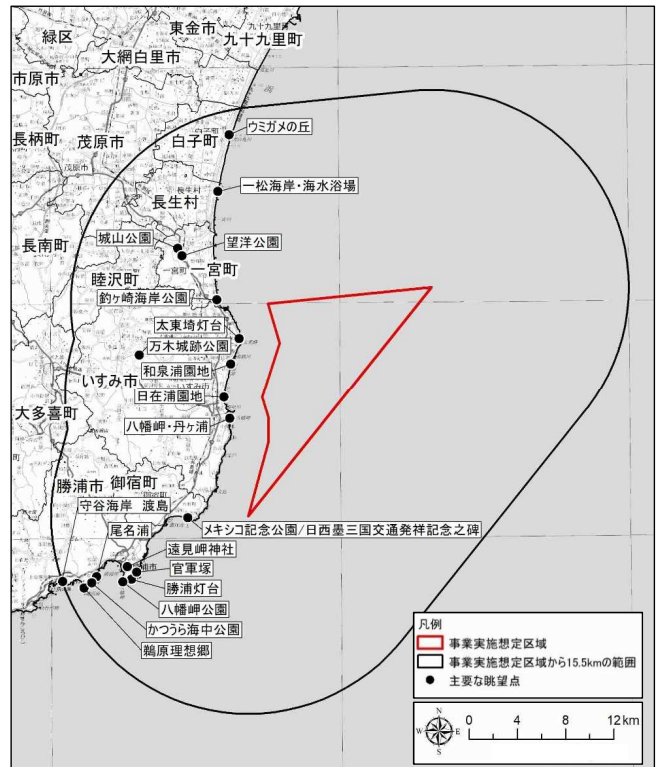
配慮書 p.4-52(256)~

#### 【景観】(2/4)

##### ①調査結果(2/2)

(主要な眺望点・眺望景観)

- 主要な眺望点として、「官軍塚」、「太東埼灯台」等の19箇所が分布する。

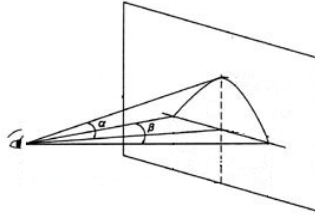


### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-45(249)~

#### 【景観】(3/4)

##### ②予測の考え方



■見えの大きさ(垂直見込角)について  
風力発電機の見えの大きさとその影響については、下表を参考に検討した。なお、左図における「α」が垂直見込み角である。

「自然との触れ合い分野の環境影響評価技術検討会中間報告書 自然との触れ合い分野の環境影響評価技術(Ⅱ)調査・予測の進め方について」(2000年、自然との触れ合い分野の環境影響評価技術検討会)より作成

風力発電機景観に対する反応及びその閾値の知見(出典1)		鉄塔の見え方の知見(出典2)	
垂直見込角	風力発電機景観に対する反応	垂直見込角	鉄塔の見え方
~約1.5°	約1.5°までは、風力発電機は見えるが気にならない。	0.5°	輪郭がやっとわかる。季節と時間(夏の午後)の条件は悪く、ガスのせいもある。
		1.0°	十分に見えるけれど、景観的にはほとんど気にならない。ガスがかかって見えにくい。
		1.5~2°	シルエットになっている場合は良く見え、場合によっては景観的に気になり出す。シルエットによらず、さらに環境融和塗色されている場合には、ほとんど気にならない。光線の加減によっては、見えないこともある。
約4.0°~	約4.0°からは、負の意味で風力発電機を気にするようになる。	3°	比較的細部までよく見えるようになり、気になる。圧迫感を受けない。
		5~6°	やや大きく見え、景観的にも大きな影響がある(構図を乱す)。架線もよく見えるようになる。圧迫感はあまり受けない(上限か)。
約8.0°~	約8.0°からは、風力発電機に対して圧迫感を覚え始める。	10~12°	めいっばいに大きくなり、圧迫感を受けるようになる。平坦なところでは垂直方向の景観要素としては際立った存在になり周囲の景観とは調和しえない。
		20°	見上げるような仰角にあり、圧迫感も強くなる。

出典1:「既設風力発電施設等における環境影響実態把握I報告書」(2018年、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)

出典2:「景観対策ガイドライン(案)」(1981年、UHV送電特別委員会環境部会立地分科会)

©2022 三井物産株式会社、RWE Renewables Japan合同会社、大阪ガス株式会社、K & Oエナジーグループ株式会社

### 3.計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果について

配慮書 p.4-58(262)~

#### 【景観】(4/4)

##### ②予測結果

- 事業実施想定区域内における景観資源及び主要な眺望点の分布はなく、直接的な改変は生じないことから、事業の実施による重大な影響はない。
- 主要な眺望点19地点のうち、風力発電機の見えの大きさ(垂直見込角)が圧迫感を受けない上限と考えられる6°を超える地点はない。
- 圧迫感を受けないが負の意味で風力発電機が気になりだすとされる4.0°を超える地点は「太東埼灯台」、「八幡岬・丹ヶ浦」、「和泉浦園地」、「日在浦園地」の4地点である。これらの地点については、景観への影響が生じる可能性があるが、圧迫感を受けない程度であることから、重大な影響はない。

##### ③評価結果

事業による重大な環境影響は、事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されている。

## 今後の留意事項 (1/2)

環境要素	留意事項
騒音	<ul style="list-style-type: none"> <li>採用を予定する風力発電機から発生する騒音が、配慮書段階の想定を大きく上回ることが明らかとなった場合には、事業実施想定区域の周囲における騒音レベルを調査・予測し、環境保全措置の検討を行う。</li> </ul>
動物	<ul style="list-style-type: none"> <li>風力発電機の配置の検討では、重要な種の生息環境となりやすく面積が限られている藻場や干潟などの位置を正確に把握し、可能な限り離隔を確保する。</li> <li>現地調査では、調査の対象とする飛翔性動物（コウモリ類及び鳥類）、海域動物（ウミガメ類、スナメリ、底生生物等）の各種の生態的な特性を踏まえた手法を検討する。</li> <li>現地調査によりコウモリ類及び鳥類の飛翔状況を把握し、バットストライク・バードストライクにより重大な環境影響が生じる可能性の高い箇所を対象に風力発電機の配置変更を含めた環境保全措置を検討する。</li> <li>水中において風力発電機の工事の実施に伴い一時的に発生する音の影響を受ける種の有無の把握を行うほか、海中背景雑音についてもデータを取得し、必要に応じて有効性の高い環境保全措置の検討を行う。</li> </ul>

## 今後の留意事項 (2/2)

環境要素	留意事項
植物 (海域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>風力発電機の配置の検討においては、重要な種の生育環境となりやすく面積が限られている藻場の位置を正確に把握し、可能な限り離隔を確保する。</li> <li>現地調査により植物の生育状況を把握し、生育が確認された重要な種に対して影響の予測を行い、必要と考えられる場合には環境保全措置を検討する。</li> </ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、方法書以降に事業計画の熟度が高まった段階において、必要に応じて、主要な眺望点等からの眺望景観、主要な眺望点の利用状況を踏まえて、風力発電機の配置計画を検討する。</li> <li>現地調査により主要な眺望点等からの眺望景観の状況等を把握し、事業による影響の予測を行い、必要に応じて環境保全措置を検討する。</li> </ul>